

企業名：九電工

レポート名：統合報告書 2021

1. この会社が目指す姿が理解できるか

P2 に記載されている企業理念から九電工が重きを置いている項目がよくわかった。それを踏まえた上で P6、7、8 の価値創造プロセス、中長期の経営戦略やビジョンを読むと九電工の目指す姿の理解をスムーズにすることができた。P7 の「挑戦したい事業」においてメガトレンドに起点した具体的な事業を述べることで将来性や持続可能性の観点において大変説得力があり、建築施工分野に精通していない一般人でも具体的なイメージを持ちやすい。

2. この会社の競争優位性が理解できるか

九電工は P14 に「総合設備業のリーディングカンパニー」と記載されている通り、電気工事や空調設備工事に長けていることがわかる。また、DX の推進や再生可能エネルギー部門に力を入れることで日本のみならず世界的需要にも対応し、海外事業展開等においても競争優位性が確保可能であることは納得できる。その他にも、企業理念に含まれるように人材育成に重きを置いているところも九電工の競争優位性の一つである。従業員全体の継続的な成長や技術力向上は九電工の発展に大きく貢献している。統合報告書 2021 は、ビジョンや戦略の項目が大変充実していると思う。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

継続的な人材育成は企業の成長に不可欠であり、新卒社員のみならず、マネジメント側の知識のアップデートや新しい学びにも焦点を当てたカリキュラムが構築されている点で非常に競争優位性に持続性があると思う。また再生可能エネルギー部門は、気候変動やロシアのウクライナ侵攻などの不安定な世界情勢を踏まえると、世界全体の需要が見込める。その中でも日本は資源に乏しく、再生可能エネルギーへの注目度が極めて高い現状がある。よって、再生可能エネルギー部門は将来性が高く、それらに投資・開発を続ける九電工の戦略は、競争優位性を持続させると理解できる。

3. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

人的資本の価値向上については企業理念や P9 の「人材育成のさらなる強化」において詳しく説明してあり大変わかりやすい。若年者 OJT(職場内教育)の強化や年齢を問わないリスキリングを視野に入れたデジタル教育支援ツール「学習管理システム (LMS)」の導入など人的資本を重視する経営体制がよくわかる。また、エンゲージメント向上の取り組みの一環

としてエンゲージメント測定ツール「Wevox」を導入することで所属長や役職者自身も自らのマネジメント力向上が可能である点も注目に値する。未曾有の世界状況において、人的資本育成に力を入れている具体的対策・方針を的確に説明しており、ステークホルダーの信頼や理解を得られる構成になっていると思う。九電工では包括的かつ持続的な人的資本向上への取り組みを行っており、年齢や役職に関わらず自身の人的資本の価値を向上することが達成できると思う。

5. 報告書にはどのような改善余地があるか

統合報告書 2021 はビジョンや戦略の説明、挑戦したい事業などの説明は充実していると思う。しかし、現時点での九電工の一番の強みや得意とする分野が一読しただけでは分かりにくかった。たとえば p14 からのセグメント別説明ではそれぞれの部門ごとの業績推移や主な施工物件の説明が詳しく書かれているが、九電工が「総合設備業のリーディングカンパニー」として何が最も得意なのか、各部門ごとの将来の展望についての説明が不足していると思う。会社全体として人材育成や D X 推進に力を入れていることは大いに理解できた。しかし会社全体ではなく、電気工事や空調衛生工事など各部門ごとの成長戦略や将来性への説明を加えることでより説得力のある統合報告書になると思う。